人・もの・ことの“つながり”を大事に

共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

過去の「共に歩まん」はこちら↑　↑過去の「マナビィ通信」はこちら

令和７年９月11日発行
第10号
中信教育事務所

学校改革支援訪問　メニューＣ「ＩＣＴ活用充実」
筑北村立筑北小学校

筑北小学校では「『つづける』『つながる』『じしんをもってかがやく』」を学校教育目標とし、めざす姿の一つに「つながる児童」を掲げ、「様々なひとと対話や交流する機会の設定」を取り入れた日々の授業づくりに励んでいます。その取組の一つとして、ＩＣＴの活用に挑戦している様子を紹介します。

訪問１回目　７月４日

児童同士をつなげるために、ＩＣＴを活用した授業づくり研修

＜研修を振り返った先生方の声＞
- ＩＣＴの使い方しだいで、授業の効率化や、全体での学びの可視化につなぐことができるなと感じました。
- ＩＣＴを活用するときは専門的なことをしなければいけないと思っていましたが、そんなに難しく考えなくてもよいのかなと思いました。書くことを苦手とする児童を手助けしてくれる一つのツールとして使っていきたいです。

デジタル教材を使用するよさについて対話する

訪問２回目　８月26日

ＩＣＴを活用して、児童同士がつながっていく授業公開

６年　道徳「外国から来た転校生」（考えを交流する場面）

最初は、学校にピアスをしてくることはだめだと思っていたけど、友だちの考えを見ると、エレナさんにもちゃんと理由があるみたい。

タブレットを活用して、互いの思考を見合う

授業後の児童の声

パソコンで、みんなの考えを見られるようになって、自分の考えにも生かせるようになった。

授業でICTを活用している先生の声

文字を書くことが苦手な子にとっては、学ぶことのハードルが下がって、**学びに意欲的に向かう姿が増えた**と感じます。

筑北小学校では、7月の研修後、職員が一体となってICTの活用に挑戦しようと動き出しました。学校改革支援訪問2回目には、「ICTを活用した授業に挑戦することで、児童の『やりたい』『わかりやすい』という声が、これまで以上に聞こえるようになり、児童が学ぶことに意欲的になっていることを感じている」と話された先生がいました。ICTを活用することで、児童の学び方が変わり、児童が発する声にも変化が生まれてきたことを実感しています。そして、ICTの活用に慣れていない方へ、同僚性を発揮して、支え合っている先生方の姿も印象的です。このような取組により、筑北小学校がめざす児童の姿の一つ「つながる児童」の育成に近づいています。

長野県教育委員会発行の「令和7年度教育課程編成・学習指導の基本」（通称　青本）には、ICT活用の特性・強みとして、**①多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤　②時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化　③空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報共有（双方向性）**を挙げています。右の二次元コードよりご覧いただき、ICTのより効果的な活用に取り組んでいきましょう。

青本